

農業の新しい技術

No. 738(令和4年(2022年)6月)
分類コード 01-05
熊本県農林水産部

「グリーンゴッデス」より収量が優れる グリーン系湿地性カラー「熊本FC03」の特性

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室
担当者：工藤陽史

研究のねらい

本県は、湿地性カラー切り花の生産量全国2位の産地。特にグリーン系は、幅広い用途で需要があり、全国に流通しているほとんどが本県産である。現在の主力品種「グリーンゴッデス」は商品性に優れ、消費地の評価は高い。しかし、白系品種と比べて収量が少なく、低水温で生育が悪く、栽培適応地域に限られる。そこで、「グリーンゴッデス」と同程度以上の商品性、白系品種「熊本FC01」（愛称「ホワイトトーチ」）と同程度の収量性と地域適応性を備えたグリーン系湿地性カラー品種を育成する。

研究の成果

グリーン系湿地性カラー品種「熊本FC03」を育成した。

「熊本FC03」植付け2年目株の収量と切り花および植物体の形態特性は以下のとおり。

1. 収量は、農産園芸研究所（5月～翌4月）・高原農業研究所（5月～12月）ともに「グリーンゴッデス」と比べて多く、「熊本FC01」と同程度。また、「グリーンゴッデス」「熊本FC01」と比べて農産園芸研究所では7月と11月、高原農業研究所では9月が多く、収穫期間が長くなる（図1、図2）。
2. 切り花の形態特性は、「グリーンゴッデス」と比べて花茎はやや太い。仏炎苞の高さは高く、長さは長く、幅は広く、重なり部分の高さは高い。肉穂花序の長さは長く、幅は広い。仏炎苞の緑色覆輪面積割合は同程度、緑色覆輪の色は濃く、発色の薄いものや流れの発生が少なく、発色は期間を通して安定している（表1、図3、図4）。
3. 植物体の形態特性の違いは、「グリーンゴッデス」と比べて新しょうの色が濃く、葉身の最大幅の位置が高く、葉の周辺の波打ちが弱い（データ省略、図5、図6）。

成果の活用面・留意点

1. 県産ブランドでの販売、グリーン系湿地性カラー販売期間の拡大に活用できる。
2. 日当たりの悪い湿田の耕作放棄回避など、農地の有効利用に活用できる。
3. 農産園芸研究所（合志市栄）の栽培は、硬質フィルムハウス内枠ほ場に2019年6月14日定植、終日水をかけ流し、ハウス内月平均気温は11.9℃～29.7℃、月平均水温は18.0℃～23.1℃。
4. 高原農業研究所（阿蘇市宮地）の栽培は、ビニルハウス内半地中隔離床に2019年6月28日定植、終日水をかけ流し、5月～12月のハウス内月平均気温は6.5℃～26.0℃、月平均水温は13.9℃～21.0℃。

[具体的データ]

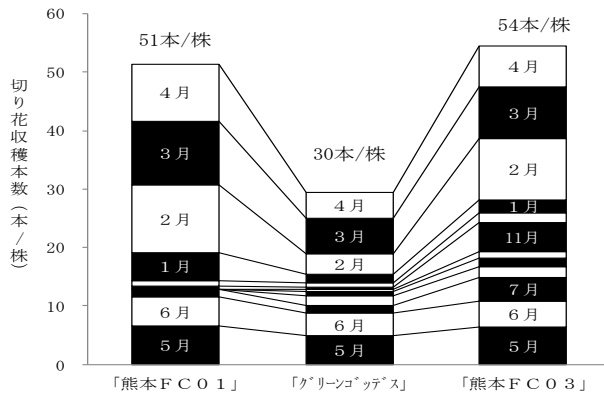


図1 農産園芸研究所における2年目株の収量
(切り花長80cm以上の切り花)
2020年5月～2021年2月 n=8株、2021年3月～4月 n=5株

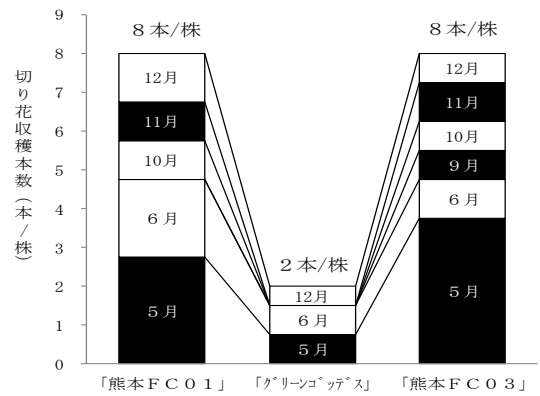


図2 高原農業研究所における2年目株の収量
(切り花長70cm以上の切り花)
2020年5月～12月 n=4株

表1 切り花の形態特性 (農産園芸研究所、切り花長80cm以上)

品種名	花茎 径*1 (mm)	仏炎苞*2 (cm)				肉穂花序*2 (cm)		緑色覆輪			
		①	②	③	④	②	③	割合*3	色*4	薄い*5	流れ*5
「グリーンゴッテス」	12.8	10.6	12.2	8.2	7.3	4.9	0.65	26%	3307	9.8%	10.7%
「熊本FC03」	15.4	13.1	13.8	11.0	9.0	6.0	0.71	22%	3308	0.9%	7.2%

花径、緑色覆輪割合 2021年3月1日～5月31日収穫、グリーンゴッテス;n=65、熊本FC03;n=109

仏炎苞、肉穂花序、緑色覆輪の色 2021年5月31日～6月28日収穫、グリーンゴッテス;n=10、熊本FC03;n=20

緑色覆輪薄い・流れ発生率 2020年5月1日～2021年4月30日収穫、グリーンゴッテス;n=151、熊本FC03;n=274

※1 切り花長中央位置の平均値、※2 ①高さ、②長さ、③幅、④重なり部の高さ

※3 仏炎苞の緑色覆輪面積割合

※4 日本園芸植物標準色票の色素番号 3GY

※5 発生率

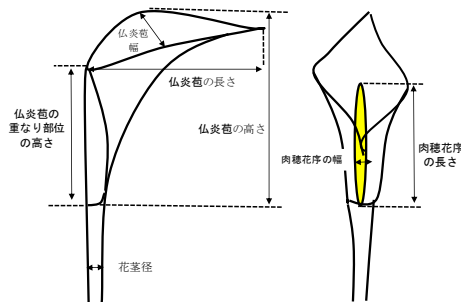


図3 仏炎苞および肉穂花序の測定部位



※A 「グリーンゴッテス」、B 「熊本FC03」

図4 仏炎苞および緑色覆輪の色の違い



「グリーンゴッテス」 「熊本FC03」

図5 草姿



「グリーンゴッテス」 「熊本FC03」

図6 葉